

恋

ほとばしる二十歳の感性!!
岡部耕大の処女作、ニューキャラクターを得て甦えり、ここに炸裂!!

和夫 秀夫 重忠 卓二 琢磨 萌
西村 安 文字 阪本 中山 遠藤 妹尾 谷口
徳一 清 安造 吾 高光 武 谷 生方
小松 河原 風化 文 金子 末永 み さ

「トントン」 (岡部耕大・演出)
戯曲そのものもよくできていて、何よりも若い役者たちの動きと声の潑刺としているのが印象的である。近ごろ珍らしく背すじのびしつとびた裸体がたくましい。新劇の俳優とは思えない、などというのはいかに皮肉になるのでやめておくれ、セリフの一字一句を大切に発声とともに、それは演劇の基本的魅力であった。
舞台は南国九州の海岸。仲間の少女が網元の息子に嫁入りをするその式の行なわれる夕刻、海岸になんとなく集った河原辺の若者たち。心の叫び。若さの爆発に弱さの現われである滑稽が入りまじって、涙の余韻も一瞬にして潮風に飛ぶのである。南国の青年に恨みがないわけではない。その絶叫も涙もかりりとしているのだ。それがこの作者と舞台の個性であった。花嫁を奪うべく岬から海に飛び込むとき、三米の高さから役者たちは次々に舞台の外へ頭から飛んだ。その意気やよ

岡部耕大 演出

空間演技『夏の冗談』PART I

「傷つける世代」を捉え、やさしさとはげしさのリズムを駆使し、時代へ、その心情露わにして桜に描く、さすらいと血の運命、鑑定!

あはれ

「素晴らしい。リングがこつこつと私には好きた。織本順吉氏(俳優)も楽しかった。池波志乃さん(女優)の演劇概念は根柢から大学」
「この人たちは同時代に生きていてよかったです。一度観てみたい。酔った。劇団青俳」

児博文 正太郎 卓二 重忠 真理 琢磨 善計
子阪本 岩手 中山 山本 妹尾 赤穂
尼本 馬 中山 十文字 山本 妹尾 赤穂
者年官人 生 高 女子 やくざ

太陽神館
世田谷区船橋6-9-11
304-8571
8月18日-8月24日
午後7時開演 日曜マチネ3時
当日¥1000 前売¥900
各ブレイクガイドにて前売中
問い合わせ先 379-5082 (空間演技事務所)

また汗ばむ頃がやって来ました。なにもかも汗ばみ暮れなすむ頃、たとえば夕餉の支度であただしい商店街の雑踏をぐぐりぬけて、ぼつんぼつんとそれぞれがそれぞれの世界を創る、ちっちゃなアパートのそれぞれの蛍光灯があつちこつちにさみしい自己主張をする、そんなフンキキにふつとふるさつを想うことはありませんか。いろんな想いがいつぱいになって、SLのあの強引な力と音のつてふるさとを離れる時、どんなに興奮したものか。いままでのなにもかもが遠くになって、あれよあれよと大きくなっていく。そんなぼくにごんごんと感動したものか。トントンオウウウのあのアナウンスにどんなに足が震えたものか。夢だけがあつた。それやこれやがあただしく過ぎて、なにかでいつぱいにふくらんでいるのにそれが誰にも伝わらず、いらつきが身体に汗ばむ頃、万年床でなお術もしらずももんとした日がありませんか。その日に書いたのが、トントンです。想いだけで書きました。加山雄三がブームでした。ふつとふるさと松浦の海が、夢中なめたエンピツにまじってにおつたような気になったものです。それからよくあるそれからでした。いつも汗ばんでいた。あつた。汗ばんだままです。オールナイトで加山雄三と合唱している連中が、トントントーンを書いた頃はまだ十三、四のガキだった連中が、すぐこうなつた。トントントーンをやりたいといつてくれませんか。汗ばむ頃をやりたいたいといつてくれませんか。想い出はそれが忘れられないのならばこたわらないのです。やつぱりあの日つてのはまたの決心です。

さてさすらいよ。これは劇団青俳のアトリエ公演に書いたものです。演出もぼくがやりました。青俳の若い役者連中が大変に新鮮につぼつて演つてくれて、ぼくの好きな現場のひとつになりました。青俳がああでもないこうでもないといひつちやかめつちやかになつている頃、尼子狂児を頭として、空間演技では軽いウォーミングアップが行われていたようです。キャストインクまでよくに気をつかつてやつてくれました。のせられました。まったくうれい。だから青俳とそのままの演出、美術、照明、音響でやってやろうと思つています。楽しみです。どうかこの二本、太鼓の音と波の音と風のそよぎの中で夕すずみをしてください。連中は、夏の冗談とて、ワンクッションまでおいてくれます。冗談じゃないばくは本気だ。
前回の公演「海と組織」で大竹まことが舞台ゲイコで骨折、満足のいく現場を創ることができませんでした。本当に申し訳ありませんでした。
いま、十二月の公演「新選組異聞」——われ心情の翼にのりて——を書いていきます。沖田総司とそのグループの話になりそうです。どうかよろしく願います。
空間演技主催 岡部耕大

スタッフ
照明 小関 英雄
音響 藤居 俊夫
美術 市来 邦比古
小道具 大原 雄二
衣装 西島 隆
宣伝 鈴木 節子
舞監 高橋 真三
舞助 谷津 公彦
演出 小形 雄二
助手 木村 みつえ
制作 中島 美浦子
大文 児企画